

クリンテートシリーズ「調光」の効果確認試験



JAにいかっぷ

小関 義幸



左:試験ハウス 右2棟:慣行ハウス

試験目的

光制御型農業用フィルム(調光)の効果確認

試験作物 及び品種

ピーマン(みおぎ)

試験資材 及び数量(規格)

調光(0.15mm×970cm×38m)

慣行資材

クリンテートFX、コーティング5+1

栽培方法

定植日
慣行区:4月2日
試験区:4月2日

収穫日
慣行区:6月上旬
試験区:6月上旬

【栽植密度】
3ベット 4列
株間:50cm

資材使用期間

4月中旬~11月下旬

試験区面積

288㎡

試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)
慣行品と変わらない。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響
試験区は元々、収量が多いハウスであるが今年も良かった。
慣行区のフィルムが新品ではなかったため、差が出て当然であるため調光の効果ははっきりとはわからなかった。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について
【優位点】:高温障害対策効果が期待出来る。
【問題点】:価格が高い。フィルムの効果が、ピーマンの品質や収量にどのくらい影響するかが確立していない点。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について
今後使用していく中で、耐久性を確認していく。
- (5)促成・抑制効果について
試験区と慣行区とのはっきりとした差がわからなかった。
- (6)保温効果について
暑い時にフィルムが白くなり、寒い時に透明になることは確認出来た。
ハウス内温度にどこまでの差が発生し、それがピーマンにどのくらい影響するのか、わからなかった。
- (7)雑草・病害虫の発生について
慣行品と変わらない。

モニター感想

試験区は元々、収量が多いハウスであることや、慣行区のフィルムが新品ではなかったことを加味すると調光の効果ははっきりとわからなかった。

JA担当者の感想(生産資材課 道下係長)

昨年、調光が発売されてから全道で1番早く導入したのが小関さんであると聞いている。
今年の天候では、はっきりとした差が感じられなかったが今後、暑い日が多い天候の時に、高温障害発生頻度の差が出る可能性がある。
また、従来の長期展張型フィルムよりも長く使えるような設計になっていると聞いたので、その点も含めて引き続き調光の効果について調査していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリンテート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他